

〔釜石市漁業協同組合連合会 釜石魚市場経営基盤復興再生事業〕  
「水産業復活の原動力」と「競争力強化で水揚げ増強」へ  
新しい魚市場の一部竣工と衛生管理施設完成の竣工式が行われました

11月22日、公益財団法人ヤマト福祉財団(本部：東京都部中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団)「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第2次助成先の一つである釜石市漁業協同組合連合会の釜石漁港の新浜町魚市場の一部竣工と衛生管理施設(殺菌冷海水製造装置30t・1基)の完成を祝う竣工式が行われました。この衛生管理施設は、本年4月25日に完成した新浜町第2魚市場内の衛生管理施設(殺菌冷海水製造装置20t・1基)及び移動式粉水車両配備に続く施設で、釜石市漁業協同組合連合会が、流失した釜石魚市場復興事業に助成金1億5,500万円を活用して推進する事業です。

リアス式海岸という地の利を活かした養殖漁業や小型漁船の水揚げを中心に活気づく釜石魚市場。しかし、震災で魚市場の要となる水揚げ施設を損失しました。“魚の町・釜石をなんとか復活させたい”と魚市場の整備を続け、昨年8月に第2魚市場を再開。取り扱い高も計画を上回り、“より水揚げしやすい衛生的な市場”への強化を進めてきました。今回、一部竣工の新浜町魚市場にも待望の衛生管理施設や輸送機器類が整備され、平成29年完成予定の新たな魚河岸地区魚市場建設による魚市場復興計画完遂に向けて、さらに大きな復興のステップアップとなりました。

竣工式で釜石市の野田武則市長は「被災地の自立につながる水産業復活の原動力となり、産地間競争に対応できる水産物の付加価値を高め、水揚げ増強につなげたい」と挨拶されました。



新装置は殺菌冷海水を30t供給でき、大型漁船の水揚げにも対応可能



新浜町魚市場の一部竣工も同時に祝いました



「魚の町・釜石の復興の柱にした」と野田市長は挨拶されました



今回の助成ではバッテリー式フォークリフトなども導入



夏の盛漁期には、漁船や市場内の水供給に4月に導入した移動式砕水車両が活躍